

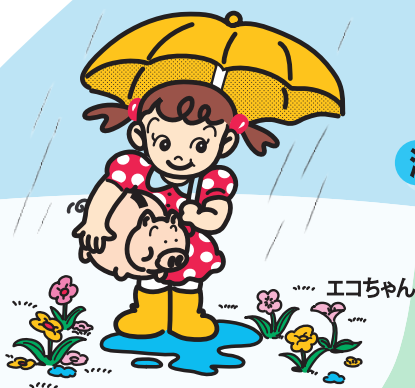
雨水貯留浸透のススメ

－「うるおいのある都市」をめざして－

都市河川の氾濫を防止します

雨水を大地に還元します

潤いと水辺景観を創出します



雨水を活用します



公益社団法人 **雨水貯留浸透技術協会**
Association for Rainwater Storage and Infiltration Technology

ご挨拶

公益社団法人雨水貯留浸透技術協会
会長 佐藤直良

本協会は、昭和 61 年度技術評価課題「浸透型流出抑制施設の開発」において、建設大臣技術評価書を交付（昭和 63 年 8 月 23 日）された民間 12 社が中心となり、評価を頂いた技術を普及させる目的で平成元年に任意団体の「雨水貯留浸透技術協会」を発足致しました。その後河川局においても都市型水害の対応など雨水貯留浸透技術の普及に力をいれる必要性を鑑み、河川局の設立許可を頂き、平成 3 年 4 月 3 日に「社団法人雨水貯留浸透技術協会」を設立、その後平成 24 年 8 月に公益法人の認定を受け、「公益社団法人雨水貯留浸透技術協会」となりました。

会員はメーカー、ゼネコン、建設コンサルタント等の正会員 25 社、賛助会員 48 社(2026 年 9 月 1 日現在)で構成されています。

本協会では、以下の 4 つの柱を立て、これまで一貫して雨水貯留浸透技術の普及に努めてまいりました。この間、雨水貯留浸透技術は治水対策のみならず、潤いのある街づくりの実現に貢献し、水循環系の再生、保全に資する技術であるとの認識が高まってまいりました。

調査・研究：普及の基礎となる指針・手引き等の整備を目的とした調査・研究や水循環系の改善のための計画手法についての検討

技術指針等の整備：「雨水浸透技術指針(案) 調査・計画編」、「同(案) 構造・施工・維持管理編」、など技術の普及の基礎となる技術指針、手引き書、製品便覧、事例集等の刊行

評価・認定：雨水貯留浸透に関する製品・工法の技術評価認定の実施

普及と啓発：講習会、見学会の開催、季刊誌「水循環 貯留と浸透」の発刊、出展、出前講座、学会発表、国際交流など

当協会といたしましては、今後、都市の水循環再生のための雨水貯留浸透技術の活用と啓発・普及を一層進めていく所存です。本冊子が、その一助となり、雨水貯留浸透技術に対する皆様方の理解を深め、業務のお役に立たせて頂ければ幸に存じます。

Index

- ◆ 雨水貯留浸透のススメ ―「うるおいのある都市」をめざして― 1
- ◆ 都市における水循環再生のための施策イメージ 5
- ◆ 公益社団法人雨水貯留浸透技術協会について / 入会のご案内 7
- ◆ 調査研究の実績 / 出版物 8
- ◆ 技術評価認定制度 / 評価認定一覧 9
- ◆ 会員一覧 10

雨水貯留浸透のススメ

「うるおいのある都市」をめざして

○水循環の変化に伴う不都合な現象

地上に降った雨水は、地中にしみ込んだり、地表面を流れて、排水路、下水道、小河川に流入し、さらに集まって大きな河川となります。市街化が進み、農地や樹林地などの雨水がよく浸透する地べたが減ると、地上に降った雨の流出速度が速くなり、雨が降り出してからすぐに河川に洪水が発生し、洪水の流量も大きくなります。

とくに、都市化が進んだ地域では道路は舗装され雨水は側溝に流れ込み、建物の屋根に降った雨水は雨樋から下水道に直行し、いずれにしても下水道や河川の流下能力をこえて浸水や洪水が激しくなります。

また、雨水が地中にしみ込みにくくなるため、地下水位の低下、湧水の枯渇、普段（晴天時）の河川水量の減少を引き起こしています。また、河川水量の減少は川の水質悪化を進行させるとともに、水辺の生態系に悪影響を与えます。同様に緑に関しても樹林地等の減少が動植物の生息場所を減少させ、生態系にも悪い影響を与えます。

こうした保水力の減少や緑の減少が今後も継続されるならば、ヒートアイランド現象に拍車をかけることになります。

暮らしは便利になりましたが、土地利用や生活様式の変化などにより、地域（街全体）の持っていた自然の水循環（水の流れ）が大きく変化したため、様々な不都合な現象が発生しているのです。

○だからこそ、雨水貯留浸透利用のススメ

これからは、今の水循環の状態を反省し、できるだけ自然な水循環に近づけることが大切です。その場合、雨水貯留浸透が一つの有効な切り札となりえます。

雨水貯留浸透には、①雨を一時的に貯留してできるだけゆっくり流したり、またせっかく貯めた雨水を流してしまうのはもったいないので貯めた雨水を利用する「貯留」という手法、②雨を地中にしみ込ませ地下水とし、できるだけ下水道や河川に直接流さない「浸透」という手法があります。

国の公共事業費が大幅に削減され地方財政も厳しい現在、下水道整備や河川改修は事業費が高むので遅々として進みませんが、貯留浸透施設は比較的安価に設置できるので個人レベルで

も設置可能です。条例により個人の施設設置をバックアップしている市もあります。

課題としては一つ一つの貯留浸透施設は小さいので数多く普及させることですが、毎年少しずつ設置していけば10年も経つと目に見える効果が現われ、浸水が減ったり湧水が復活したりすることが期待できます。

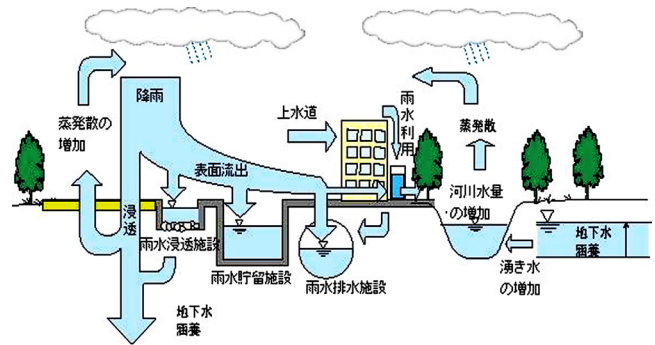


図1 貯留浸透利用による水循環再生のイメージ

○雨水貯留浸透施設とはどんなもの？

代表的な浸透施設には、穴のあいた「桟」、「パイプ」、「側溝」、「人孔」の周辺を碎石などで巻き込んだものに、集水した雨水を導いてその側面・底面から地中にしみ込ます「浸透ます」、「浸透トレンチ」、「浸透側溝」、「浸透マンホール」や、文字通り池底から浸透させる「浸透池」、また雨水を直接透水性のある舗装表面から路盤、路床へとしみ込ます「透水性舗装」などがあります。



図2 雨水浸透施設の種類



図3 雨水貯留施設の種類

一方、貯留施設には、大きいものでは開発指導などによってよく設置される「調整池」、地下に設置される大口径の「雨水貯留管」、コンクリート製の「プレキャスト式地下貯留槽」、「地下空隙貯留槽」、中小規模なものに、公園・校庭・駐車場での表面貯留、建物間の棟間貯留などがあります。

地下空隙貯留には、従来よく用いられた碎石（空隙率 30～40%）に替わって、空隙率 90%以上を持つプラスチック製の小さな貯留材を人力にてレゴブロックのように積み上げて数十～数千 m^3 の貯留（浸透）槽を造り上げる各種工法が近年普及しています。

雨水利用については、100 L ～1000 L 程度まで、形の様々な雨水タンクが市販されています。変わり種として、下水道への接続に伴い不要になった浄化槽を雨水タンクに利用する場合もあります。

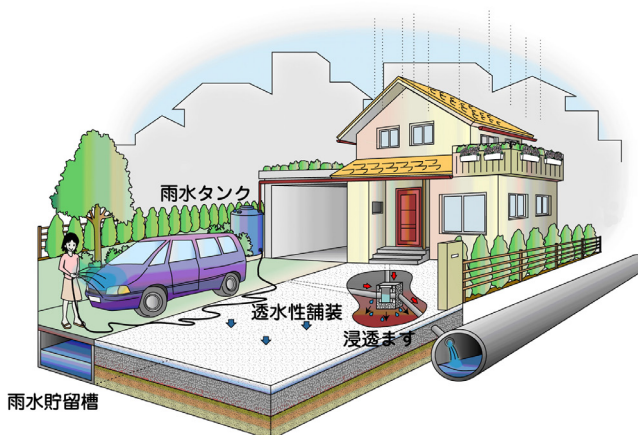


図4 戸建住宅における活用例

○その効能は？

(1) 流出抑制効果

宅地や団地の開発がさかんに行われた昭和 40 年代から、開発後の雨水流出増対策として「調整池」等の貯留施設の設置が進められてきました。しかし、「調整池」は放流先の状況によっては、非常に巨大な容量が必要になり、土地の有効利用が大変阻害されました。だからといって、放流先の下水道や河川の整備にも多大な時間と費用がかかります。そうした中で、調整池の容量削減や雨水流出量そのものの削減を図るため、降った雨をその場で貯めたり、浸透させる小規模な雨水貯留浸透施設が登場したわけです。

日本で初めて本格的にこのオンサイト型の雨水貯留浸透施設を導入したのが、東京都昭島市にある昭島つつじが丘ハイツ（現、都市再生機構）でした。賃貸住宅地の一部約 3.17ha の雨水排水施設として、北側のブロック約 1.32ha の浸透工法を採用し、南側のブロック約 1.86ha には在来工法による下水道を設置し、東京都の下水道五年確率降雨による雨水流出量が下流の流下能力を満足する排水計画としています。なお、当団地に接続予定の公共下水道の整備が用地問題等により遅れていましたが、浸透工法の採用により計画どおりに入居することができています。

昭和 56 年の供用開始から、雨水貯留浸透施設の流出抑制効果を継続して調査していますが、施設を設置した地区とそうでない地区の観測データを比較すると、雨水の総流出量が平均しておよそ 5 分の 1 に低減されることが確認されています。35 年以上の長きにわたり特別な維持管理をしないで施設の機能が維持されていることはすばらしいことです。

(2) 地下水涵養・湧水保全・再生効果

浸透施設は、雨水流出量の減少分が地下に浸透するため、地下水涵養効果を発揮します。一例として、関東ロームの浸透適地において、屋根面積 100m^2 に対し、標準的な浸透ますを 2 個設置した場合、それらの浸透強度は、屋根に降る約 4mm/hr の雨を浸透させることができます。柳瀬川流域の場合、年間を通してみると、屋根に降った雨の約 8 割を浸透させることができます（図5参照）。

東京都世田谷区では地下水と湧水の保全を目的に約 30 年前から浸透ますの設置を推進しています。昭和 63 年と平成 7 年の両年の世田谷区成城みつ池湧水の枯渇期間、浸透ます設置個

数、期間中の降水量を比較して、湧水枯渇期間中、枯渇前3ヶ月および1年間のいずれの降水量も平成7年のほうが少ないにもかかわらず、湧水枯渇期間は52日間から34日間へと短縮されたことが観測されました（表1参照）。浸透ますの湧水保全効果の現れだと考えられています。

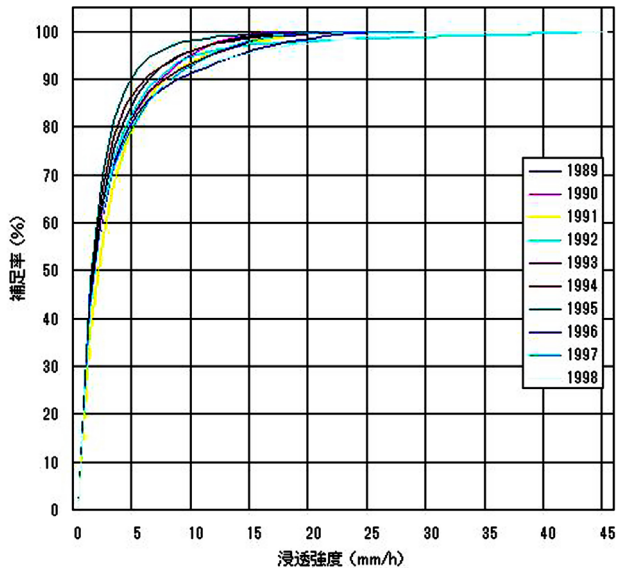


図5 年間総雨量に対する補足率（柳瀬川流域）

表1 世田谷区成城みつ池湧水の枯渇状況

	昭和63年 (1988年)	平成7年 (1995年)
浸透ます 設置個数	20基	901基
湧水枯渇 期間	1988年1月31日 より52日間	1995年2月10日 より34日間
枯渇期間中 の降水量	194.5mm	93.0mm
枯渇前3ヶ月 の降水量	139.0mm	104.0mm
枯渇前1年間 の降水量	1,168.0mm	1,118.5mm

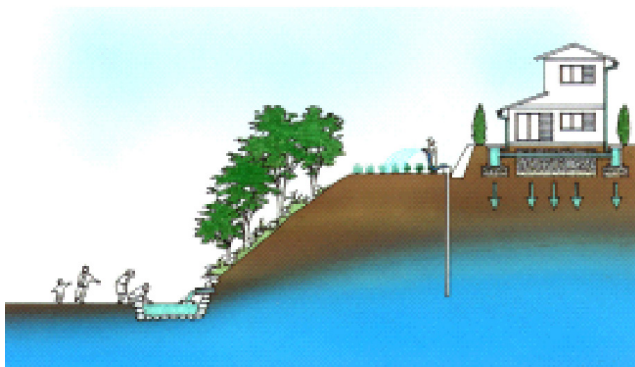


図6 地下水涵養効果のイメージ

平成16年10月、東京都武蔵野市と三鷹市にまたがる井の頭公園内の池の水が40年ぶりに澄み渡るという珍事がおきました。原因は、

直前に降った豪雨により地下水が上昇し、大量の湧水が池に流入したためでした。公園の管理事務所によれば、「公園周辺の住宅に設置された一万基の浸透ますの効果では」と考えられています。

そのほか雨水浸透は、表層土壌の乾燥化を防ぎ土壌水分量を高めるので植物育成効果、そして気温や地温の調節効果も期待されます。

(3) 雨水利用による節水効果

世田谷の等々力にある個人住宅において、駐車場地下に貯留槽（屋根集水面積116.1m²、貯水容量2.12m³）が1984年に設置され、1985年から降水量、トイレ使用水量、井戸水補給量が計測されています（図6参照）。

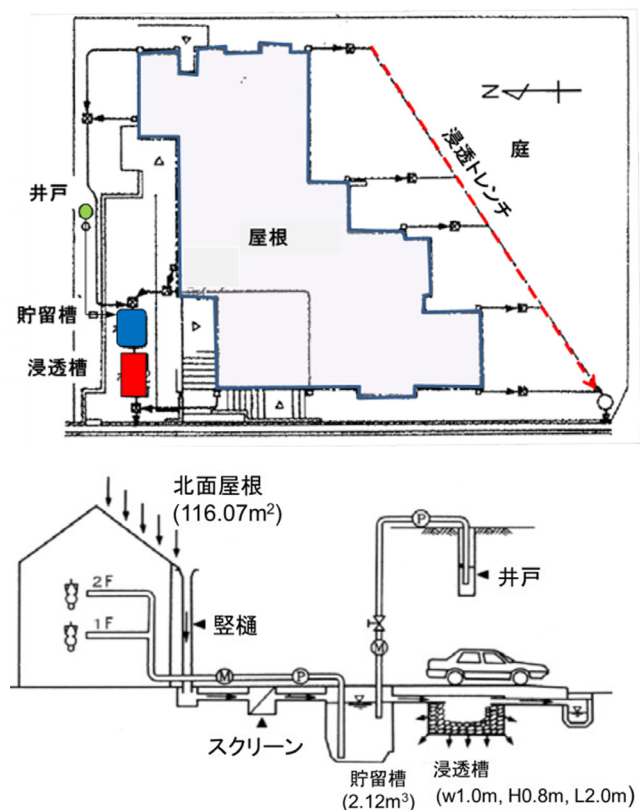


図7 世田谷区個人宅の雨水利用施設の概要

2013年までの29年間にトイレ洗浄水として使用された平均年間水量は119m³で、その69%の81m³が雨水で賄われ、不足分の31%（38m³）が井戸から補給されています。

東京都の一般家庭におけるトイレ洗浄水が生活用水に占める割合は約22%です。したがって、雨水利用により15%（＝22%×69%）の節水効果がありました。費用については、年間で10,000円程度の水道料金が軽減されたと試算されています。

こうした雨水利用が普及していくならば、節

水により水道水の造水と配水にかかるCO₂排出量を低減することもできます。

(4) 雨水貯留浸透利用の経済性

もう一度おさらいとして、都市化が水循環に及ぼす影響を整理してみましょう。(図参照)

都市化とは、都市が有する経済社会活動の効率性の追究に伴うその活動の集中と規模の拡大と言えます。人口の集中、経済活動の拡大は、生産性の向上をもたらし、消費生活の拡大や利便性・快適性等の生活水準の向上に寄与しました。その一方で、市街地の拡大、生活様式の高度化、人口の高密度化、土地利用の高度化に伴い、建物や道路などの不透透域の拡大、水需要の増大、生活・工場排水の増加や水面・緑地の減少等が引き起こされ、雨への対応としては「可能な限り速やかな雨水排除」を第一義とする排水システムの整備が進められてきました。その結果、河川の基底流量の減少、洪水の増大、渇

水時の都市機能の脆弱化、生態系の変化、放流水域や地下水の水質悪化、都市気候の変化などの影響が現れました。都市の水循環には、つきつめれば①洪水制御、②平常時流量の確保、③水資源の保全と開発、④生態系の保全及び汚濁制御、⑤熱環境の改善の5つの課題が抽出されます。

これらの課題に対しては、各種の対策があり、次表に示すとおり雨水の貯留浸透は、定量的な効率性の議論を抜きにすれば、すべての課題に効果があることが分かります。

低成長時代に入って久しい現在、従来の先入れ後出し法のような一つの課題に対して集中的に財政投資することよりも、長期的なまちづくりの視点からみんなで取り組むことができる雨水の貯留浸透を段階的に進めていくことが、トータル的に安上がりなると考えています。

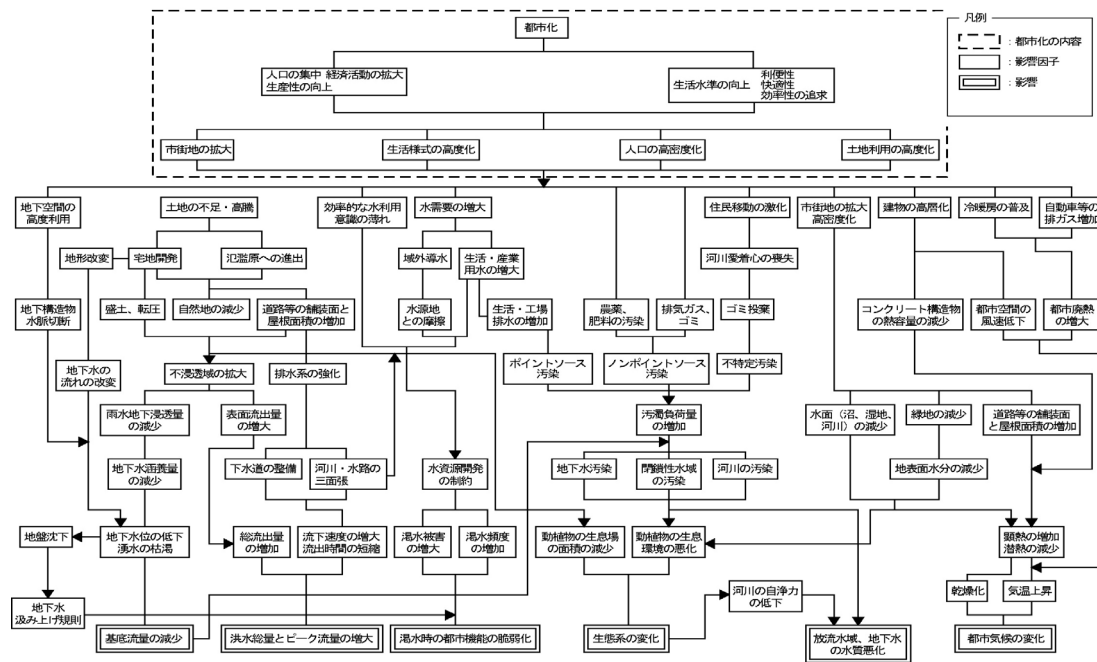


図8 都市化が水循環に及ぼす影響

表2 都市の水循環上の課題と対策の関係

課 題 支 的 要 因 対 策	①洪水制御	②平常時流量の確保	③水資源の保全開発		④生態系の保全及び汚濁制御	⑤熱環境の改善	
	表面流出	地下水涵養	都市用水		汚濁負荷	熱収支	
			都市活動用水	家庭用水		熱エネルギー	水（蒸発散）
自然地の保全	○	○			○	○	○
土地改変の適正化	○	○			○	○	○
雨水浸透施設の普及	○	○	△		○	○	○
雨水貯留施設の普及	○	○	○	○	○	○	○
下水道の整備	○	○	△		○		
河川の整備	○				○		○
耐水化の促進	○						
水資源の循環利用		○	○	○			
効率的な水利用意義の高揚			○	○			
地下水の流れの保全		○	△				
地下水利用の適正化		○	○				
河川・湖沼の浄化			△		○		
工場・生活排水の汚濁負荷			△	△	○		
市街地・農地等からの汚濁負荷軽減	△		△	△	○		
都市緑化						○	○
未利用エネルギーの活用						○	

○は直接の効果、△は間接的效果を示す。網掛けした対策に対しても、雨水の貯留浸透は寄与する。

都市における水循環再生

・河川の平常流量の確保 ・洪水防御 ・水資源の保全と有効利用



再生のための施策イメージ

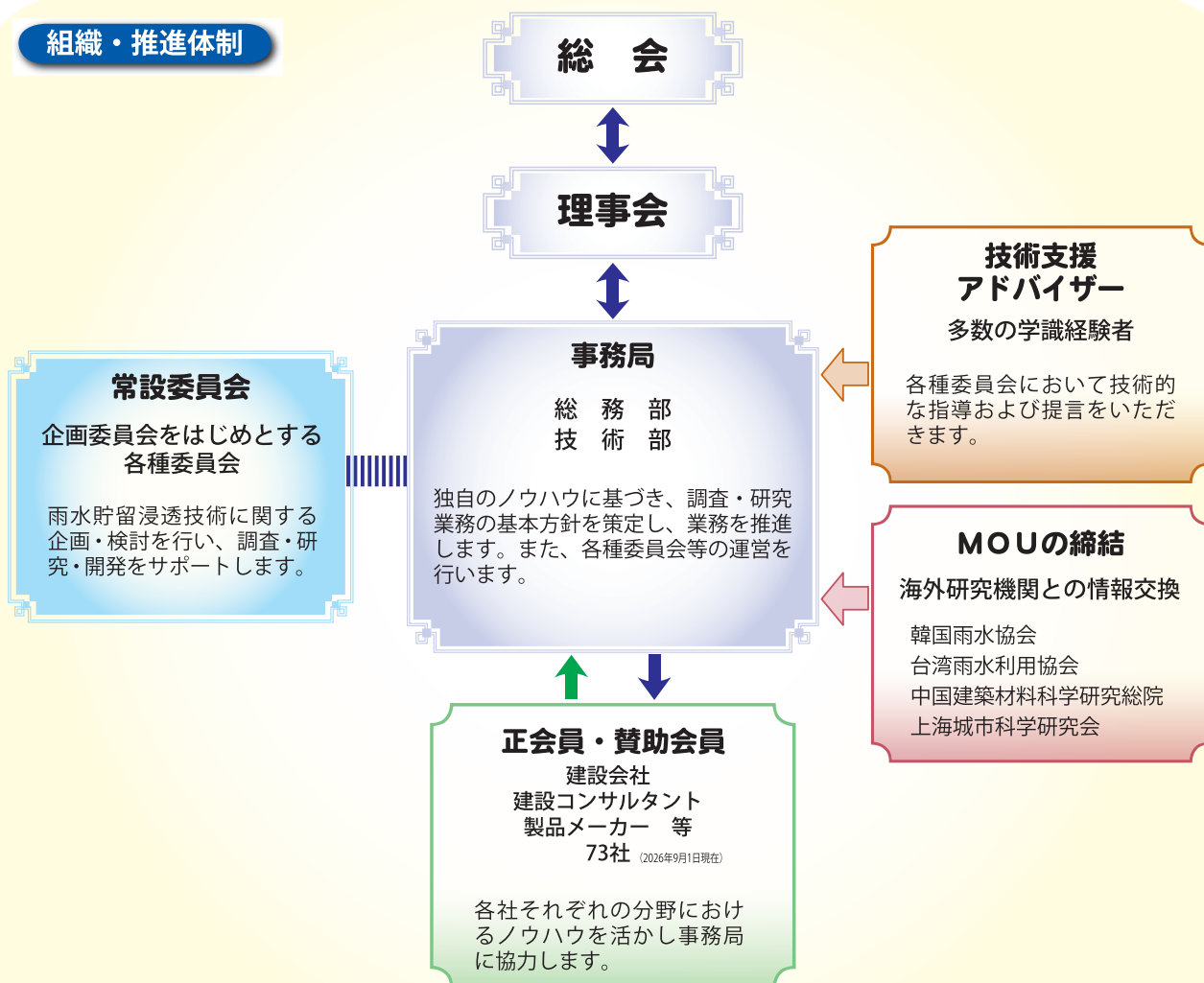
と有効利用 ・生態系の保全と復元 ・汚濁制御 ・熱環境の改善



公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会について

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会は、平成3年4月の設立以来、雨水貯留浸透技術の調査、研究および開発を通して「健全な水循環系の確保」などにかかわる、水循環再生、総合治水等の事業の調査から計画策定、事業化検討まで、高度な技術力と幅広い人脈で、強力にサポートします。

組織・推進体制



入会のご案内

〈会員の種別〉

当協会は、雨水貯留浸透にご関心のある様々な企業・団体・個人の方々の入会を歓迎いたします。

1. 正 会 員：雨水貯留浸透施設に関する事業に携わる法人又は団体で、正会員2名以上の推薦が必要（入会金・年会費の納入）
2. 賛助会員：本協会の事業を賛助すると認められる法人又は団体（年会費の納入）

〈会員の特典等〉

1. 協会内の各種委員会活動、研究会への参画（正会員）
2. 機関誌「水循環 貯留と浸透」の購読
3. 講習会、見学会等の協会事業への優先的参加
4. 会員名簿への記載、HPでの紹介、会員標記の許可
5. 優先的技術相談
6. 調査・研究・開発等の受託事業への参画（正会員）

〈入会方法〉

まずは事務局までご相談ください。入会申込書を郵送します。

入会申込書の到着後、理事会の審査により入会承認が決定されます。入会のお申込や技術的な相談などについては、上記までお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先

公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

総務部：大西または技術部：屋井

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-7-1 半蔵門村山ビル1階

TEL 03-5275-9591

FAX 03-5275-9594

E-mail info@arsit.or.jp

URL http://www.arsit.or.jp

調査研究の実績

水循環関連

- ・柳瀬川流域水循環マスタープラン策定（国・東京都・埼玉県・流域自治体等）
- ・水循環系における地下水の評価手法検討（国）
- ・六角川総合水管理―望ましい水循環形成に向けて（国）
- ・水循環再生行動計画策定：神田川（東京都）、海老川（千葉県）、和泉川（横浜市）等
- ・流域づくり/水循環再生構想策定：江川（埼玉県）、真間川（千葉県）等
- ・健全な水循環に資する地下水適正管理海外事例調査（国）

総合治水関連

- ・雨水浸透施設の設置基準等の調査（国）
- ・流域内住民等による雨水貯留浸透施設の設置促進方策検討（国）
- ・都市防災の向上に資する調整池等の整備手法に関する調査（都市再生機構）
- ・「特定都市河川浸水被害対策法」施行に伴う基礎調査（町田市）雨水浸透調査（市川市）
- ・消雪井戸を活用した浸水対策（見附市）

宅地開発に伴う貯留浸透施設関連

- ・雨水貯留機能を有した舗装技術に関する実験解析（国土技術政策総合研究所）
- ・伊奈町福祉センター貯留浸透施設導入計画（茨城県）
- ・宅地開発に伴う雨水排水計画の手引きの策定（千葉県）
- ・葛城・萱丸地区雨水排水計画指針等策定（茨城県、都市再生機構）
- ・雨水浸透貯留施設の20年経過における流出抑制効果に関する研究（都市再生機構）

大学等との共同研究ほか

- ・気候変動に適応した調和型都市圏水利用システムの開発（JST・東京大学他）
- ・AUES-W0002-2011雨水活用建築ガイドライン・AUES-W0003-2016雨水活用技術規準の策定（日本建築学会）
- ・公園のもつ生態系サービスに関する調査研究（国連大学・国士館大学）

出版物

当協会においては、雨水貯留浸透施設の設置にあたって必要となる各種技術指針、マニュアル、事例集等、並びに水循環再生や雨水利用に関する参考図書を発刊しております。
また、雨水貯留浸透技術の向上と普及を目的とした機関誌「水循環 貯留と浸透」を年3回発刊しております。



増補改訂
雨水浸透施設技術指針 [案]
調査・計画編



増補改訂
雨水浸透施設技術指針 [案]
構造・施工・維持管理編



増補改訂
流域貯留施設等技術指針 [案]



雨水貯留浸透施設総覧



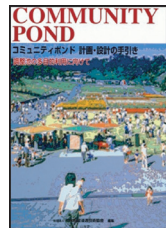
雨水活用建築製品便覧
CD-ROM版



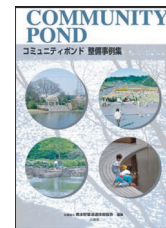
都市の水循環再生に向けて



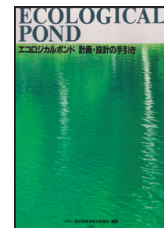
都市域における水循環系の定量化手法
―水循環系の再生に向けて―



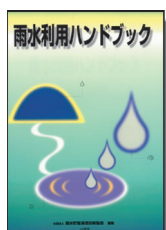
コミュニティポンド
計画・設計の手引き



コミュニティポンド
整備事例集



エコロジカルポンド
計画・設計の手引き



雨水利用ハンドブック



戸建住宅における
雨水貯留浸透施設設置マニュアル



雨水貯留浸透施設の設置に関する
支援措置のご案内



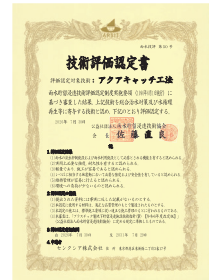
雨水浸透施設
普及促進策の提案



季刊誌
「水循環 貯留と浸透」

技術評価認定制度

本制度は、民間における雨水貯留浸透技術の研究開発を促進するとともに、雨水貯留浸透技術の建設事業への適正かつ迅速な導入を目的として平成8年6月にスタートしました。
 令和8年8月末日現在までに、50件の技術評価認定を行っています。



〈技術評価認定〉

※製品生産終了等により認定番号に欠番あり

第1号	シンシンプロック	シンシンプロック槽
第2号	日東	NT式I型雨水貯留槽
第6号	東急建設・タキロンシーアイ・明治化成・三菱商事プラスチック	アクアブラ工法
第7号	エコマックス	エコマックス工法
第8号	佐藤渡辺	パーミアコン・パーミストーン
第9号	積水テクノ成型	クロスウェーブ工法
第12号	秩父ケミカル	ニュートレンチ工法
第14号	トーテツ	セル型構造地下貯水槽
第16号	アロン化成	MA-1工法
第17号	松岡コンクリート工業	ハニカムボックス工法 (H750mm～H2000mm)
第18号	ジョイント・平和コンクリート工業	ポカラ式雨水地下貯留施設
第19号	城東リブロン	ハイドロスタッフ工法
第20号	秩父ケミカル・天昇電気工業	プラダム工法
第22号	ミニゲート研究会	ミニゲート工法
第23号	日東	NT式X型雨水貯留浸透槽
第24号	スピーダーレンタル	EGSM工法
第25号	共和コンクリート工業	ブラックス工法
第26号	日東商事・日東ジオテクノ・佐藤渡辺	ジオプール AE-1工法
第27号	IHIインスクエア	GEOCUBE (ジオキューブ) 工法
第28号	東邦レオ	J・ミックス
第29号	トーテツ	アクアパレス工法
第30号	リス興業・クボタケミックス	スタジアム工法
第31号	タキロンシーアイ	レインセーブN工法
第32号	ベルテクス	M.V.P-Light システム
第33号	ベルテクス	M.V.P-Deep システム
第34号	エバタ	エバタプラスチック製 雨水貯留浸透工法
第35号	松岡コンクリート工業	ハニカムボックス工法 (H2250mm～H3000mm)
第38号	ガイナ	GAINA・RI・システム
第39号	中川ヒューム管工業・林物産	コンタイプブロック工法
第40号	タケウチ建設	WT工法 (Water Tank)
第41号	城東テクノ・サムシング	JSドレーン工法
第42号	秩父ケミカル	ニューブラ工法
第43号	天昇電気工業	テンレイン・スクラム工法
第44号	ブランド・ツリス・日東商事・地耐協	スーパージオ広報
第45号	キャドテック	C-RPA工法
第46号	ヤマウ	アクアポンドL型工法
第47号	ヤマウ	アクアポンドM型工法
第48号	リス興業	スタジアムGT工法 (スタジアムGT型)
第49号	PUMPMAN	Dotcon 工法
第50号	センクシア	アクアキャッチ工法

〈技術評価認定 (OEM)〉

第3号	物林	UST システム (ハイドロスタッフ工法)
-----	----	-----------------------

〈製品評価認定〉

第1号	トーテツ	ぶんりゅうⅡ型
第2号	雨水貯留浸透製品工業会	シントーホール (鉄蓋含む)
第3号	雨水貯留浸透製品工業会	シントー側溝 250・300・450・500
第4号	トーテツ	除塵管理樹
第5号	ベルテクス	れいんクル
第7号	エバタ	システムハニカム
第8号	オーイケ・平和コンクリート工業	OK ザールフィルター (凸型メタルフィルター)
第9号	エバタ	ゴミトールプラス
第10号	吉原化工・泰成興業	もやいドレーン
第11号	東邦レオ	グリーンアクアミックスV・K・GAM-V・GAM-K
第13号	共同カイトック	スクエアターフ洪水無用
第15号	日本興業	バリアフリーペイプSI (エスアイ)
第16号	東邦レオ	レインガーデンソイル (ピソソイル, グラスミックスV・K)
第17号	関西ボラコン	浸透ボラコン柵 EMBX2シリーズ
第18号	帝人・秩父ケミカル	透水セル
第19号	東邦レオ	パワーミックスV・K
第20号	エバタ	エバタプラスチック製パネケーブ沈砂槽
第21号	サムシング・城東リブロン	2重管JSドレーンプラス
第22号	城東リブロン	ハイドロスタッフ工法 越流樹 (オリフィス樹)
第23号	インターファーム	軽量人工土壌 ポストンファームⅡ
第24号	東京インキ	グラウンドセル (プラスチック製地下貯留施設基礎地盤補強材)
第25号	日本興業	アクアゲッター (雨水貯留側溝)
第26号	アロン化成	機能性雨マス (雨水フィルターマス・雨水オリフィスマス・雨水逆流防止マス)
第27号	ビルマデル	エコロベースソイル
第28号	日本植生	タフタフパーク・グラスストロング (NS路盤材)
第29号	ガラス発泡資材事業協同組合	雨庭用ガラス発泡リサイクル資材スーパーソル (L1, L2, L4)

〈雨水流出抑制技術評価認定〉

第1号	群馬県住宅供給公社	ロイヤルタウンみずぎ野雨水貯留浸透システム
-----	-----------	-----------------------

〈技術推薦〉

第1号	鶴見コンクリート	ツルミ式遊水池
第6号	ベルテクス	M.V.P. システム

会 員 一 覧

2026 年 9 月 1 日現在

【正会員】

25 社

いであ株式会社
株式会社エイト日本技術開発
エバタ株式会社
鹿島建設株式会社
共和コンクリート工業株式会社
株式会社建設技術研究所
株式会社佐藤渡辺
清水建設株式会社
城東リプロン株式会社
積水化学工業株式会社
大銑産業株式会社
タキロンシーアイ株式会社
秩父ケミカル株式会社

東急建設株式会社
株式会社東京建設コンサルタント
日東商事株式会社
日本工営株式会社
日本興業株式会社
日本ヒューム株式会社
物林株式会社
ベルテクス株式会社
PUMP MAN 株式会社
三井共同建設コンサルタント株式会社
三井住友建設株式会社
リス興業株式会社

【賛助会員】

48 社

株式会社 I H I インフラスクエア
合同会社アールアンドユー・レゾリューションズ
アロン化成株式会社
雨水貯留浸透製品工業会
株式会社エコマック
株式会社オーイケ
岡三リビック株式会社
株式会社ガイナ
ガラス発泡資材事業協同組合
関西ポラコン株式会社
キャドテック株式会社
小泉製麻株式会社
株式会社コクカコーポレーション
株式会社サムシング
シンシンブロック株式会社
スピーダーレンタル株式会社
センクシア株式会社
株式会社ソイルリサイクル工業
株式会社タイガーチヨダマテリアル
泰成興業株式会社
株式会社タケウチ建設
株式会社タニタハウジングウェア
中央開発株式会社
中央復建コンサルタンツ株式会社

鶴見コンクリート株式会社
天昇電気工業株式会社
東京インキ株式会社
東邦レオ株式会社
株式会社トーテツ
株式会社日東
株式会社日東ジオテクノ
日本植生株式会社
日本道路株式会社
株式会社ハイクレー
パスキン工業株式会社
日之出水道機器株式会社
有限会社プラネッツ
株式会社プラネット
株式会社ホクエツ
北海道ポラコン株式会社
ポラコン工業会
前澤化成工業株式会社
前田道路株式会社
松岡コンクリート工業株式会社
ミニゲート研究会
株式会社明治ゴム化成
株式会社ヤマックス
株式会社ライスター・テクノロジーズ



公益社団法人 雨水貯留浸透技術協会

Association for Rainwater Storage and Infiltration Technology

〒102-0083 東京都千代田区麹町3丁目7番1号 半蔵門村山ビル1階

TEL 03-5275-9591 FAX 03-5275-9594

URL <http://www.arsit.or.jp> E-Mail info@arsit.or.jp